目次/編集方針

トップメッセージ

グループ概要

ニコンのサステナビリティ

社会・労働

ガバナンス

企業市民活動

オープンイノベーションによる 投資支援



調達パートナー向け 品質管理システムアセスメント



お客様満足度



\* 映像事業における米州、欧州および中国で のコールセンターの対応に対する満足度。

マテリアリティ1 コア技術による社会価値創造	028
ニコンの社会価値創造	029
マテリアリティ2 信頼に応える品質の維持·向上	035
ニコンのものづくり	036
品質と安全の確保	038

マテリアリティ1

# コア技術による社会価値創造



企業は社会の公器と言われ、透明で公正な事業活動を通じて社会の持続可能な発展に寄与す る社会的責任を負っています。さらに近年、グローバルレベルの社会課題が顕在化する中で、企 業には社会システムやライフスタイルを変革するようなイノベーションを起こし、事業を通し て社会課題の解決に貢献することが期待されています。

ニコンは、2030年のありたい姿として「人と機械が共創する社会の中心企業」を掲げています。 事業そのものの強みを活かしながら、ニコンならではの革新的な価値やソリューションを提供し、 サステナブルな社会の実現に貢献します。

#### ● 指標と目標

自己評価:○達成、△一部未達成、計画変更

指標	目標(達成年度)	2024年度計画 (アクションプラン)	2024年度実績	自己評価	2025年度計画 (アクションプラン)	
成長ドライバーの連結営業利益に占める比率			• 0%以下			
サービス·コンポーネントの連結営業利益に占 める比率	50%以上(2030年度)	※各事業部・本部の年度計画	• 59%	_	※各事業部・本部の年度計画	

# ニコンの社会価値創造

# 基本的な考え方

ニコンは中期経営計画において、2030年のありたい姿を「人 と機械が共創する社会の中心企業 | としています。ニコンの 100年以上続く歴史の中で、露光装置に代表される超精密な ものづくりの力、デジタルカメラをグローバルに普及させ るブランド、さらにステークホルダーの信頼を培ってきま した。これらの強みを活かし、顧客の体験価値やイノベーショ ン創出に寄り添うソリューションを提供し、人と機械がよ りシームレスに共創していく世界で人間の可能性を拡げま す。そして、SDGsをはじめとした社会の課題、産業の課題に 対し、革新的な価値を提供し、豊かでサステナブルな社会の 実現に貢献していきます。

# 戦略

# リスク

グローバルレベルの課題が顕在化し、多様化する社会に おいて、お客様の体験価値やイノベーション創出に寄与す るソリューションを提供できない場合、顧客の信頼を喪失し、 企業ブランド力の低下や業績低下となる可能性があります。

# 機会

社会システムやライフスタイルを改変するようなイノベー ションを起こし、事業を通して社会課題解決に貢献するこ とで、企業ブランド力の向上や、持続的成長につながります。

### 戦略

ニコングループでは、企業理念 [信頼と創造] のもと、 事業による新しい価値の「創造」により、持続可能な社会 に貢献することをめざしています。サステナビリティ方 針では、「ニコンならではの製品・サービスを生み出し、 事業活動を通して、環境・社会課題の解決やSDGs 達成に 貢献することを目指す| ことを掲げ、「創造| を通じて社 会に貢献する意志を示しています。

また、マテリアリティのひとつである「コア技術による社会 価値創造 を推進するため、中期経営計画ではサステナビリティ 戦略を経営基盤のひとつとしています。本計画では、2030年の ありたい姿を「人と機械が共創する社会の中心企業」と定め、 人間の可能性を拡げる[インダストリー]と、人生を豊かにす る「クオリティオブライフ(OOL)」、価値提供領域において、ファ クトリー、エネルギー、ヘルスケア、ライフ&エンターテインメ

#### ● 「創造 | を通じた社会への貢献

2030年のありたい姿 人と機械が共創する社会の中心企業

サステナブルな社会

健全な環境 豊かな社会 心と体の健康 ニコンの貢献領域



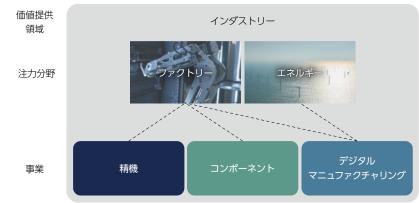
ントの分野に注力しています。これらにより、人と機械がより シームレスに共創していく世界の中で、SDGsの達成、そして サステナブルな社会の実現に向け、特に安全・労働環境、脱炭 素、資源循環、健康、心の豊かさの領域で貢献していきます。

# 中期経営計画における貢献領域と事業

ニコンでは、中期経営計画において、コンポーネント事業、 デジタルマニュファクチャリング事業、精機事業によりイ ンダストリー領域の、映像事業、ヘルスケア事業によりQOL 領域の価値提供をめざします。その中で、完成品・サービス・ コンポーネントが一体となったソリューション提供を成長 ドライバーとして、5つの領域を中心としたサステナブルな 社会への貢献と、自社の成長をめざしていきます。



#### - ニコンの価値提供領域と事業





#### ●事業を通じた貢献

ニコンの貢献領域	● 精機 ● コンポーネント ● デジタルマニュファクチャリング	●映像	●ヘルスケア
安全・労働環境 (省人化/自動化/カスタム化)	<ul><li>センシング・イメージング・ディスプレイ等を通じて、労働環境や交通インフラに貢献</li><li>画像解析や光通信技術で、都市づくりや災害に強い社会基盤に寄与</li><li>人工衛星モジュール提供等を通じて、宇宙産業・技術の発展に貢献</li></ul>		
脱炭素	<ul> <li>光を使った付加加工や微細加工で、社会のエネルギー効率を高める</li> <li>高度な手や目を持つロボットやデバイス製造プロセスで、ものづくりを効率化</li> <li>映像制作技術で、時間・空間/現実と仮想を超えて人がつながる社会に寄与</li> <li>自社製品の光源長寿命化や耐久性向上で、健全な地球環境に貢献</li> </ul>	••	
資源循環	<ul><li>タービン補修等や超精密加工・制御・測定等で、お客様の廃棄負担軽減やリユースを促進</li><li>装置再生/中古品販売強化で、循環型社会をめざす</li><li>デジタル化によるリデュースを推進</li></ul>		
健康 (医療の高精度化/個別化医療)	<ul><li>◆疾病の早期・高精度評価で、医師や患者の負担を軽減し創薬を支援</li><li>◆細胞受託生産ソリューションで、皆が使える再生医療を実現</li><li>◆高精度なロボットモジュールで医療をサポート</li></ul>		
心の豊かさ (教育×デジタル)	<ul><li>・映像機器・3D/4D技術等で、豊かでクリエイティブな映像表現・文化に貢献</li><li>・カメラや顕微鏡、望遠鏡で、宇宙や自然科学等への興味喚起、学習と次世代の担い手育成に寄与</li><li>・時間・空間/現実と仮想を超えた教育・トレーニング</li></ul>		

# 主な取り組み

### 研究開発

ニコンでは、執行役員が委員長を務める「技術戦略委員会」 において、社会課題をマクロトレンドとして分析した上で、 事業環境分析、市場の検討・評価などを行い、注力すべき新 領域の開拓をしています。また、既存事業の技術戦略と研究 開発計画も策定しています。これらに基づき、各事業部に共 通する技術や将来技術の研究開発は、先進技術開発本部が 担っています。

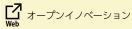


# オープンイノベーション

多様化する社会課題に対し、その解決につながる新しい 製品・サービス開発、事業立ち上げのスピードを加速するた めの手段のひとつとして、ニコンでは、外部リソースを積極 的に活用するオープンイノベーションを取り入れています。

具体的には、コーポレートベンチャーキャピタルの活動 の一例として、プライベート・ファンドを設立してベンチャー 企業に直接投資し、有望な技術やアイデアを持つベンチャー 企業を支援・育成する仕組みを設けています。 プライベー ト・ファンドは国内の2つ、Nikon-SBI Innovation Fund および Nikon-SBI Innovation Fund II に加え、2024年8月に米国に拠 点を置くNFocus Fundを設立しています。

2025年3月末現在、21社のベンチャーおよび12社のベン チャーキャピタルに投資支援をしています。



# 知的財産の創出・活用

ニコンは、持続的な事業成長を支える製品や技術の競争 力を適切に保護するために、必要十分な知的財産ポートフォ リオを構築し、それを有効活用しています。同時に、他者の 知的財産権を尊重しつつ、自社の知的財産権が侵害された 場合には毅然とした態度で権利を活用しています。

経営計画を達成するためには、各事業の事業戦略を知的 財産の側面から支えることが重要です。そのため、ニコンで は、事業部門、研究開発部門、知的財産部門が密接に連携し、 各事業に最適化した知的財産戦略を策定・実行しています。 この戦略では、特許、意匠、商標を組み合わせた「知財ミック ス」も活用し、製品やサービスを包括的に保護しています。 このような活動を通じて、中長期的な視点で事業成長に欠 かせない知的財産の創出とリスクマネジメントを推進して います。



知的財産活動

#### 事業を通じた価値提供事例-1

ニコンの貢献領域 健康

# 不妊治療を支える製品で 少子化問題解決に貢献

日本や欧米などでは少子化が深刻な社会課題となり、 不妊治療の需要が増加しています\*。この社会課題に対 峙しているのが、医師の指導のもと、体外受精や顕微授 精、胚培養など生殖補助医療を支える「胚培養士」です。 不奸治療件数の増加に伴い、胚培養士の負担も増してお り、作業の効率性と正確性がより一層求められています。 このような社会的な背景からニコンの子会社である 株式会社ニコンソリューションズは、顕微授精に特化 した [ECLIPSE Ti2-I] を2024年7月に発売しました。

※日本では、不妊治療による出生は全体の8.6%(「ARTデータブック」(日本産科婦人 科学会)、「合計特殊出生率について」(厚生労働省)をもとに、2021年の出生数から 算出)。欧州では、不妊治療は2011年と2019年の比較で約1.8倍に増加(「ART in Europe, 2019: results generated from European registries by ESHREJ (Human Reproduction, 2023, 38(12), 2321-2338) をもとに算出)。米国では、不妊治療は 2012年と2021年の比較で約2.3倍に増加。(「CDC 2021 Assisted Reproductive Technology (ART) Fertility Clinic and National Summary Report」をもとに算出)。



ICSI / IMSI 用電動倒立顕微鏡 [ECLIPSE Ti2-I] (株式会社ナリシゲライフメッドのマニピュレーター装着時)

# 顕微授精の効率化と正確性に貢献

不奸治療のひとつの手法として顕微授精があります。 顕微授精は採卵した卵子に、顕微鏡下で直接精子を注 入する治療法のことです。微細な操作が必要なため、顕 微鏡で観察しながら、短時間で作業する必要があり、高 い技術を持つ胚培養士がその役割を担っています。

顕微授精の複雑なプロセスを効率化するために開発 された顕微鏡が、ECLIPSE Ti2-I です。プロセスごとに必 要な顕微鏡の設定変更や観察モードの切り替えを、顕 微鏡をのぞいたまま手元のボタンによりワンタッチで 行うことができます。そのため、従来機種と比べて操作 工数を約75%削減(ニコン調べ)し、ワークフローの大 幅な効率化を実現します(図1)。

また、顕微鏡前面に配置したディスプレイには直感

的に操作できるアイコンを採用するほか、アラート機能 を搭載することで操作ミスの予防を図っています(図2)。

さらに、ニコン独自の光学技術によって、卵子や精子 を明るく鮮明に観察できます。特に、視認が難しい卵子 の紡錘体を全方位でカラー表示できる機能は、胚培養 士が精子を注入する際に針を刺す角度を正確に見極め るサポートとなり、不好治療の作業精度向上と胚培養 士の負担軽減に貢献します(図3)。

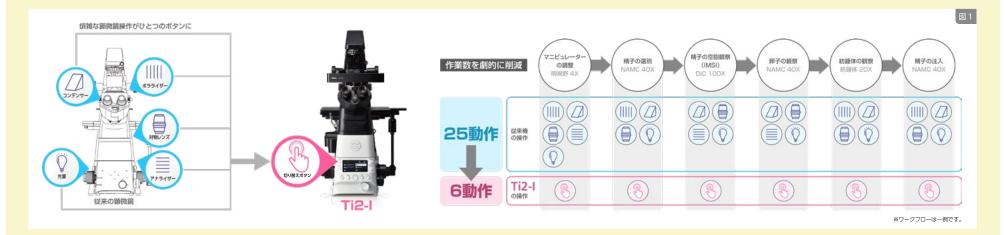
### 胚培養士の負担軽減

顕微授精を担当する胚培養士は、命のもとである卵 子や精子を扱うというプレッシャー、常にミスなく最 善の作業を短時間で実施しなければならないというプ レッシャーなどにさらされています。また不奸に悩む

患者に最良の結果を提供したいという使命感も重なり、 その精神的な負担は非常に大きいという声が多くあり ます。

さらに、顕微授精は限られたスペース内で複数の作 業者が交代で行うルーチン作業であり、効率的な作業





社会・労働

>コア技術による社会価値創造 >信頼に応える品質の維持・向上

環境が欠かせません。特に、手動での頻繁な顕微鏡操作 が必要で、これが胚培養十の負担を増大させる一因と なっていました。

ECLIPSE Ti2-Iの導入により、これらの課題が大きく改 善され、胚培養士の負担軽減と作業効率の向上が期待 されています。ニコンは、このような顕微鏡を扱う方々 のサポートを通じて、不好治療の分野で貢献できるこ とを探求していきます。

# 女性の社会進出や多様なライフスタイルに貢献

不奸治療の進歩は、女性の社会進出や多様なライフ スタイルの実現に大きく寄与しています。妊娠を望む ためにキャリア形成をあきらめざるを得なかった女性 が、体外受精や顕微授精が選択肢に加わることでライ フステージに応じた出産計画を立てやすくなります。 加齢や医学的要因で自然妊娠が難しい人でも妊娠の可 能性が高まります。晩婚化や初婚年齢の上昇、シングル マザーの増加など家族の形が多様化する状況において も、誰もが親になり、子どもを持つという可能性を拡げ ることができます。

このように不妊治療の進歩は、多様な価値観を尊重 する社会の実現を後押しします。ニコンはこれからも、 人々の健康でよりクリエイティブな働き方や多様な暮 らしを支えていきます。

## 事業を通じた価値提供事例-2

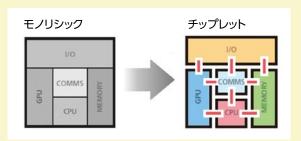
ニコンの貢献領域 脱炭素

# 次世代半導体製造とサステナブルな 未来に貢献するデジタル露光装置

## 微細化の限界を克服するチップレット

半導体業界では、モノリシックににおける回路パター ンの微細化が限界に近づきつつあり、新たな製造技術 としてチップレットが注目されています。従来のモノ リシックにでは、回路パターンの微細化が進むほどに 製造コストが増加し、歩留まりの低下や設計の複雑化 といった課題が顕著になっています。特に最先端プロ セスでは、これらの問題が深刻化しており、性能向上と コストの両立が難しくなっています。

こうした背景から、複数のチップを組み合わせてひ とつのプロセッサを構成するチップレットが近年、注 日されています。チップレットでは必要なチップだけ を最新プロセスで製造し、それ以外は従来のプロセス



モノリシックとチップレットの比較イメージ

を使用できるため、製造コストの削減、歩留まりの向上 が可能です。今後、チップレットはデータセンターやAI など幅広い分野に貢献すると期待されており、次世代 の半導体の主流となる可能性があります。

# チップレットの製造と露光装置

AIやクラウドサービス、ビッグデータ解析の需要が 急増する中、データセンター向け半導体には、これまで 以上に高性能と高効率が求められています。そしてデー タセンターでの大規模な処理を支えるためには、より 多くのチップを搭載できる大型のチップレットが不可 欠です。

チップレットの製造工程では、チップ同士を正確に 接続するための微細な配線を形成する必要があり、こ れに用いられるのが配線用露光装置です。この装置は フォトマスクに刻まれているパターンを感光性材料が 塗布された基板に投影し、配線パターンを形成します。 大型のチップレットでは、複数のチップレット間で高 速かつ低消費電力の通信を実現するため、接続配線の 密度や正確さが特に重要とされています。

# 微細化と生産性の両立

高性能化と大型化が進むチップレットの製造で、配 線用露光装置には微細化と露光面積の拡大が求められ ています。ニコンは長年培ってきた半導体露光装置の 高解像技術によって微細化を可能にし、最先端の配線

形成に対応します。

一方で、チップレットの大型化に伴い基板サイズも 拡大し、露光装置には広い面積を短時間で露光する高 い牛産性が求められますが、FPD露光装置の「マルチレ ンズテクノロジー」を投入することで克服できます。こ の技術は、複数のレンズを並べて広い露光エリアを効 率良くスキャンすることができ、今後の基板の大型化 にも対応可能です。

このように、微細化と生産性を両立するニコンのデ ジタル露光装置は、次世代半導体製造において不可欠 な技術基盤を提供します。



デジタル露光装置のイメージ

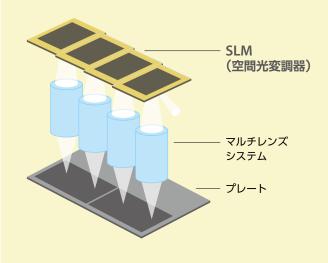
# フォトマスク不要のデジタル露光装置

ニコンのデジタル露光装置は、フォトマスクをSLM(空 間光変調器)に置き換えることで開発リードタイムの短 縮や露光精度の向上だけでなく、環境やサステナビリ

ティにも大きく寄与するメリットがあります。

従来のフォトマスクは、製造や輸送の過程で化学薬 品やエネルギーを消費し、最終的には廃棄物になりま す。また、配線の変更があるたびに新しいマスクを作成 する必要があり、エネルギー消費や廃棄物の発生は避 けられません。

一方、SLMを採用することで、物理的なフォトマスク が不要になり、これらの環境負荷を大幅に削減できま す。さらに、SLMは電子制御によってさまざまなパター ンを生成できるため、配線パターンの変更に即時に対 応でき、試作や開発が効率化されリソースの無駄を減 らすことができます。



SLM(空間光変調器)を用いたデジタル露光技術

# 持続可能性とさまざまな分野の発展に貢献

ニコンのデジタル露光装置は、チップレットの製造 に大きく貢献することで、半導体のさらなる発展を支 える基盤となり、医療、教育、交通、エネルギーなど幅広 い分野で効率化や利便性をもたらし、人々の生活の豊 かさや快適さにつながります。

また、資源消費や環境負荷を削減し、半導体製造工程 全体のカーボンフットプリントを削減する未来志向の 技術ともいえます。デジタル露光装置は、環境保護と技 術革新を両立させ持続可能性を実現する技術であり、 未来の社会を支える重要な役割を担っていきます。

ニコンはこのデジタル露光装置を、2026年度中に発 売する予定です。